



蘇る、蒲生の自然

蒲生干潟と海浜

5月号

若葉が茂り出した蒲生の海浜

(5月中旬の蒲生干潟)



湿地帯の植物

アシの群落



日和山の左手にはアシが生い茂っています。枯れたアシの下には新芽が伸びてきています。この時期から7月下旬頃まで、東南アジアより繁殖のために飛来してきたオオヨシキリの元気な囀りが聞こえてきます。アシの茎に巣をかけてヒナを育て、餌は昆虫類や小動物だそうです。



アシ原から干潟までの所に枯れた植物が広がっています。植物名はよく分かりません。ゴカイを採っていた人に聞いても分かりませんでした。よく観察すると新芽が生えてきています。大きく成長する7月頃になると植物名も分かると思います。



アシ原

乾燥地帯の海浜植物

シオクグの群落？



海浜の2か所にハマエンドウの群落を見つけることができました。花畑のようでした。

根以外の部分を山菜として利用できますが、実には有害成分が含まれるため、たくさん食べるのは控えたほうがいいそうです。



ハマエンドウの群落



ハマヒルガオ

一輪の花がお出迎え



海浜を歩いていると花が一輪だけ咲いていました。咲き始めのサインであればいいと思いました。

開花期が6月からの植物もあるそうです。



ハマニガナ？

生い茂る海浜植物



コウボウムギ



砂浜は、日差しが強く乾燥しやすいなど植物が生きていくためには大変厳しい環境です。ふつうの植物はとうてい生活することはできません。コウボウムギやハマニンニクは、地下茎を深く伸ばしています。このことは、浜の砂が風で吹きとばされるのを防ぐ役割も果たしているそうです。



ハマニンニク

これからが旬、そしてこれまでに見られた海浜植物



テリハノイバラ (5~7月)



ハマポウフウ (6~7月)



ハマニガナ (6~8月)



ウンラン (8~10月)



ハマナス (6~8月)



ハマナスの実



植物名不明

防潮堤の陸側の人里



シロツメグサ

蒲生干潟の野鳥



この日（5/12）の干潮時の干潟では、シギの中間が長いくちばしを干潟の泥の中に差し入れて餌（カニやゴカイなど）を捕食していました。

シギは、アフリカ大陸東部、南北アメリカ大陸、ユーラシア大陸に分布して、日本には旅鳥として春と秋に渡来するものが多いそうです。

下の○のシギは、これまで蒲生干潟で確認できたシギです。この日のシギは何シギでしょうか？撮影が不慣れなため、不鮮明な写真となりました。申し訳ありません。



チュウシャクシギ



ツルシギ



キアシシギ



アオアシシギ



キョウジョシギ



オオソリハシシギ



トウネン



ホウロクシギ

下の鳥の名前はなんですか？



A : ウミネコ



B : カモメ

正解は、最終ページです。

不鮮明な写真ですが、あるところに着目すると！

紺碧の空の下、純白のコアジサシ！



WEB 画像より



1992年4月に旧中野小へ赴任した時には、既にコアジサシは飛来しなくなっていました。これまで、旧中野小のシンボルバード（校鳥）としてのコアジサシは、写真と話でしか記憶にありません。

5月12日快晴。初めて飛び舞うコアジサシを見ることができました。感動しました！

蒲生海岸のコアジサシの営巣地



コアジサシは、砂礫地に営巣します。卵と、かえったばかりのヒナの体毛の色模様は、天敵から襲われないように砂礫によく似ています。



2020年7月29日の河北新報

「野鳥の楽園」復活の翼 コアジサシ 集団繁殖、仙台・蒲生海岸で30年ぶり

2020年07月29日 06:05

コアジサシの親鳥が流線形の優雅な翼を羽ばたかせて大空を舞った。この夏、仙台市宮城野区の蒲生海岸で、約30年ぶりに夏の渡り鳥のコアジサシによる複数の繁殖活動が確認された。



砂浜で身を潜めて待っていたひな（左）に小魚を与える親鳥＝7月中旬、仙台市宮城野区の蒲生海岸

1980年代半ばまで毎年数百羽の群れが飛来。コロニーと呼ばれる集団営巣地を作り上げていたが、90年を最後にコロニーは確認されていなかった。



津波によって一時「復元不能」と言われた蒲生干潟。蒲生の自然は蘇っています。そこは地域の宝です。海浜植物や野鳥を守っていきましょう！





参考にしてください。

2020年7月30日の毎日新聞

毎日新聞 新規登録 ログイン

トップニュース 速報 ランキング 新型コロナウイルス

人間が整えた場所で繁殖 開発に待ったかける？ コアジサシ保護 どうする

2020/8/30 14:00



生まれたばかりのヒナにエサの小鱼をやるコアジサシ＝東京都大田区の森ヶ崎水再生センターで2015年6月13日、後藤由耶撮影

絶滅危惧種の渡り鳥・コアジサシが、用地造成工事が行われている埋め立て地などで営巣する事例が相次いでいる。砂浜や河原など繁殖に適した自然環境が減っているためとみられる。生息地が開発で脅かされる中、繁殖地を保全する動きも出ている。【宮川佐知子】

大阪万博予定地で繁殖活動

コアジサシは、全長25センチ前後のカモメ科の水鳥で、黒い頭部、灰色の背が特徴。日本には4月ごろ飛来し、9月ごろ南半球へ渡っていく。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に分類される。

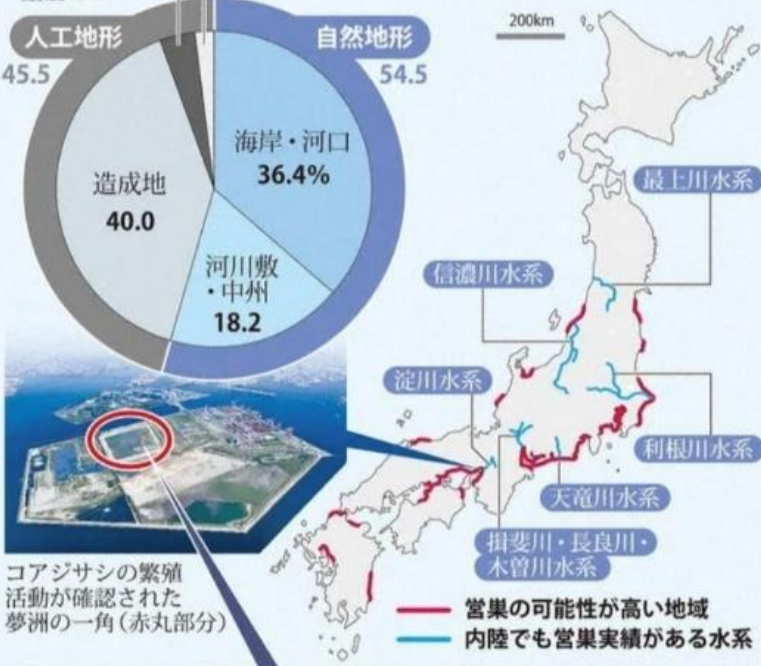
本来は、海岸や河川敷にコロニー（集団営巣地）を作る。土や砂利がむき出しになった裸地（らち）を好み、工事が始まる前の更地や空港で繁殖することもある。国内では5000～1万のつがいが生息していると推定され、繁殖状況を調査した環境省の2011年度の報告書によると、営巣が確認された55地点のうち、45%を造成地や屋上などの人工地形が占めた。

地形別に見たコアジサシの繁殖環境



コアジサシが営巣する可能性が高い地域

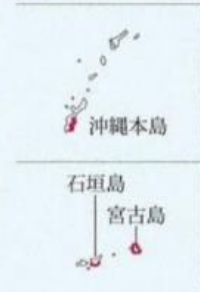
※環境省資料をもとに作成



コアジサシの繁殖活動が確認された夢洲の一角(赤丸部分)



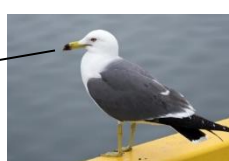
大阪市のIR建設予定地の夢洲で確認された抱卵しているとみられるペア(大阪自然環境保全協会提供)



コアジサシの営巣地は仙台以南のようです。日本のどこかの新聞やテレビでコアジサシの集団繁殖の様子が報道されるのではないのでしょうか？



クイズの答えは、
A：ウミネコ です。



ウミネコは黄色いくちばしの先端に黒帯と赤斑があり、目つきが鋭く見えます。